



級

第1回

## 随筆文

日 分

月 時 分

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

さわやかな男として、私の頭に真っ先に浮かんだのは、若田光一さんである。スペースシャトル・エンデバーに搭乗し、ロボット・アームで衛星をみごと回収した人だ。

若田さんの何がそんなに魅力かという点、一にも二にも①表情だ。私の目にした限りでは、宇宙について語る彼は、常に笑顔であった。宇宙に関する仕事に携わっていることそのものが、心から嬉しいように。「②自分は幸運な人間です」と彼は語っている。子どもの頃、アポロの月着陸を見て以来、あこがれがあったが、米ソの人しか機会はないと思っていた、と。同じ空の仕事として、航空会社に入社、やがて新聞で宇宙飛行士の募集を知る。

九日間の旅を終え、地球に降り着いたとき、エンデバーの機体を右手でそっととおしむようになでていた。その姿を見て私は、

③この男は、人生を愛せる男だ

と感じた。日本人初の搭乗運用技術者となった名誉や、衛星回収の成功ゆえではない。「幸運な人間」と自らも言っているように、それらは後からついてきた結果であって、彼としては、夢に向かって生きていくそのことが、喜びなのではないだろうか。あの表情は、内面が満ち足りた人だけに、できるもののように思うのだ。

- (1) 「若田光一さん」とは、どんな人物かを説明した一文をさがし、初めの五字をぬき出しなさい。

- (2) 線①「表情」とありますが、その表情をくわしく説明した部分をさがし、「表情」と続くようにぬき出しなさい。

表情

- (3) 線②「自分は幸運な人間です」とありますが、どのようなことが幸運なのか。次の文の□にあてはまる言葉を文中からぬき出し、文を完成させなさい。

□がなと思っていたが、□になって、□に行けたこと

① ( )      ② ( )      ③ ( )

④ ( )      ⑤ ( )      ⑥ ( )

- (4) 線③「この男は、人生を愛せる男だ」と、筆者が思った理由を次から選び、記号で答えなさい。

- ア 物にもやさしくできる人だから。  
 イ 夢に向かって生きる喜びを知っているから。  
 ウ あこがれの宇宙飛行士になっているから。  
 エ 名誉や成功を手に入れたから。

( )



級

第1回

## 説明文(1)

日 分  
月 時 分  
時

## 二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ツバメが人家の軒下などで繁殖するということは、だれもが知っている。明治・大正時代はもとより、江戸時代や鎌倉・平安時代にまでさかのぼっても、おそらく人家で繁殖していたであろう。ツバメが建物内で繁殖するという記録は古く、①大昔からの習性のように思える。

しかし、ツバメが人家に巣を作るという習性は、ツバメ本来の習性なのだろうか。鳥類の祖先である始祖鳥が、ジュラ紀の地層から出土しているように、人類の起源よりも、鳥類の起源の方がはるかに古い。Aとすれば、人類もおらず、当然のことながら人家もなかった時代に、ツバメは自然のどこで、どのように繁殖していたのであろうか。そして、人類が出現し、集落を形成するにつれて、なぜツバメたちは自然の繁殖場所を放棄して、人間のいる環境を選択するようになったのだろうか。

このように考えてみると、ツバメが人家の軒下などで子育てをするのは、ツバメ本来の習性ではなく、過去のどこかで、人類と出会うことによって、繁殖場所を変更したにちがいない。

大自然の中での繁殖を放棄し、人家周辺をすみかとして選択した鳥としてはツバメの他には、スズメも挙げられよう。スズメは、人の住む所に、人とともに生息している。森の奥深くや、山の中の一軒家などにはいない。ある程度の集落が発達し、人が定住しているとスズメも定住するようになる。村に人が住まなくなると、いつの間にか、スズメの姿も消えてしまう。スズメが繁殖し、定着しているかどうかは、その地に人が定住しているかどうかの目じるしにもなっている。他方、日本列島が森林でおおわれ、人が定住していなかった時代には、スズメも生息していなかった可能性が大きい。もし、

もともと日本列島のどこかにスズメが分布していたと仮定しても、ツバメと同様に、自然を放棄して人間のいる環境へと生息場所を変更するという時期があったであろう。

注 繁殖：新しく生まれてふえること

(1) 線①「大昔からの習性」とありますが、これと同じ意味を表す言葉を文中から八字でぬき出しなさい。

(2) Aにあてはまる一文を次から選び、記号で答えなさい。

- ア ツバメの出現よりも、人類が先に出現していたに違いない  
 イ ツバメの出現よりも、人類が先に出現していたことはありえる  
 ウ 人類の出現よりも、ツバメが先に出現していたことはありえない  
 エ 人類の出現よりも、ツバメが先に出現していたに違いない

(3) ツバメやスズメの繁殖場所は、どこですか。文中から四字でぬき出しなさい。

(4) この文章の内容と一致するものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ツバメが建物内で繁殖するのは平安時代のころからである。  
 イ スズメは森の奥深くや山の中の一軒家などにいる。  
 ウ ツバメやスズメは、日本列島が森におおわれている時代に、人家の周辺で生息していた。  
 エ ツバメやスズメは、人類と出会うことによって、自然の繁殖場所を放棄したと思われる。



級

第1回

# 説明文(2)

日 分  
月 時 分  
時

③ 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①動物によって、目のついている位置はそれぞれちがう。キリンやシカやヤギなどの草食動物の顔と、トラやオオカミなどの肉食動物の顔を思い浮かべてみると、よくわかる。

草食動物は目と目の間がはなれていて、極端に言うとなら私たちの「こめかみ」に目がついているようだ。だから、真つ正面から顔を見ると、目じりが見えない。ついでに、実に優しそうな顔に見える。一方、肉食動物は、左右の目の間隔がずつとせまく、正面から見ても、ちゃんと両目のすべてが見える。いかにもせいかな顔つきに見える大きな理由だ。

目の位置は A と B に関係がある。左右の「こめかみ」についているようなはなれた目は、顔を前に向けていても、右目はかなり右後ろまで、左目もかなり左後ろまで見える。つまり同時に見ることのできるはんいは、視野が広いわけである。キリンなら三〇〇度以上の視野があるはずだ。

ただ、そのかわり、右目の視野と左目の視野がダブる部分、要するに、同じ物を両目で同時に見ることのできるはんいはせまくなる。ひとつの物を、結核、左右の目のはなれている草食動物は、全体の視野は広いが、きより感つきの視野はせまいということになる。いつも敵を警戒していなくてはならない草食動物の暮らしには、きより感をぎせいにしても、後ろまで見える広い視野が必要なのだ。

逆に肉食動物は、視野よりもきより感の方が必要だ。きより感がなければ、えものに正確にとびかかることができないからだ。だから肉食動物の目は、草食動物にくらべて両目の間隔がせまく、全体の視野はせまくとも立体

視可能なはんいが広くなっているわけだ。そして、私たち人間をふくむサル仲間も、肉食動物と同じ目のつき方だ。木から木へと正確に飛び移るには、やはりきより感が必要なのだ。

(1) 線①「動物によって、目のついている位置はそれぞれちがう」とありますが、これによって、1草食動物の顔、2肉食動物の顔は、どんなふうに見えますか。それぞれ文中から六字でぬき出しなさい。

1 ( ) 2 ( ) ( )

(2) A ・ B にあてはまる言葉を次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 左右の目の間隔    イ 視野    ウ きより感    エ 立体視

( ) ( ) ( ) ( )

(3) 草食動物に広い視野が必要な理由を「1から」と続くように、文中から十八字でぬき出しなさい。

( ) から。

(4) 線②「肉食動物は、視野よりもきより感の方が必要だ」とありますが、その理由を「1から」と続くように、文中からぬき出しなさい。

( ) から。

(5) サルも肉食動物と同じ目のつき方である理由を「1ため」と続くように、文中からぬき出しなさい。

( ) ため

